

# **Propelling**

Issue 2



# Nakashima People Vol.2

武林 加苗 ナカシマプロペラ 営業本部

ときに100トンを超える船舶用プロペラを売る武林氏。ナカシマプロペラの本拠地である岡山に生まれ育ち、イギリスへの留学、東京での就職などを経て故郷に戻った彼女は、そのコミュニケーション力を評価され、多くの海外顧客を抱える同社の営業部門に、女性で初めて採用された。以来10年、現在はドイツ・ギリシャの船主や中国の造船所などを担当する彼女から、ナカシマプロペラへの想いを聞いた。

Q 留学先での学びと現在のお仕事のつながりは?

A イギリスでは、広場や道路など、公共の場所で展開される芸術作品「パブリック・アート」について理論的に学んでいました。建築現場をアート空間にするプロジェクトなどで、制作に参加したこともあります。

正直なところ、当時は自分が将来営業の仕事を するとは、想像もしていませんでした。

ただ、私が扱っているプロペラ、とりわけ、優れた設計技術が生み出す研ぎ澄まされた機能美を、日本伝統の職人の心と技が磨き上げ実現するナカシマの製品は、一つ一つ個性的でとても美しい造形になっています。決して人の目に触れない場所に設置されるという意味では、パブリック・アートの対極にあるものかもしれません。でも、日本文化には、たとえば着物の裏地のように、人に見えない部分の美を大切にするなど、「表」と「裏」についての価値観が、西欧とちがうところがありますよね。プロペラの美しさは性能の高さの証しでもありますから、私にしかできないプロペラの価値の捉え方・伝え方をこれからも追求していきたいと思います。

Propelling は、陽の あたらない船底でその 一生を送るプロペラが 秘めるメッセージに 光をあてて、世界の船 そして船とともにある 世界を未来へと一歩 進める岡山発・日本発 のかわらばん

# Propelling Issue 2



#### Q プロペラの営業のむずかしさとは?

A ナカシマ製品の性能の高さには定評がありますが、評価される数字は主として試験の結果であり、そこに表れる差はコンマ何%というわずかなものです。実際の運航、そして20~30年というプロペラの長い寿命を通して、それがどのような違いにつながるか、可視化して示すことが課題になっています。

メンテナンス・コストの削減、環境負荷の低減、安全性の確保 などを実現し、推進性能を最適化するナカシマ製品の品質を、お 客様の「目に見える」ものとするためには、データ解析の拡充と 同時に、私たち営業スタッフのコミュニケーションの工夫も重要 だと考えています。

#### Q ナカシマプロペラで働く喜びとは?

A はじめて売れたプロペラが、工場から出荷されていくのを見たときの感動は、やはり心に残っています。台湾のお客様を相手に、7ヶ月かけてまとめた契約でした。

最近は、お客様から相談され、アドバイスを求められることが 増えてきたのがなによりうれしいですね。いまだに男性中心の業界で、女性の営業というだけで不安な目を向けられていた時期も ありますから。技術・設計チームとも連携して、一つ一つ確かで 柔らかな対応を積み重ねて、ナカシマブランドへの信頼のさらなる深化へとつなげていきたいと思います。

### Q 10年後のナカシマプロペラの武林さんとは?

A ニュースや映画で巨大な船が映ると、これを動かしているのは

私たちのプロペラかもしれないと、つい見入ってしまいます。そんなスケールの大きいアイテムだからこそ、そこに描ける夢も大きい、それがプロペラなのだと私は感じています。

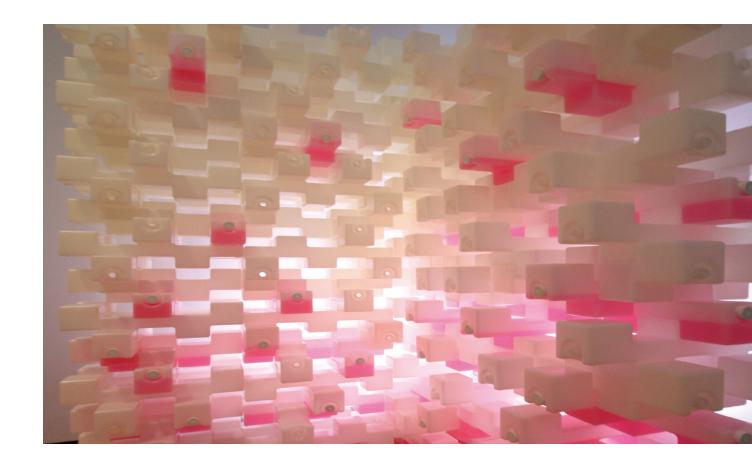
「これが当たり前」という発想や既存の垣根をこえて、進化し続けるナカシマプロペラで、10年後も新しい「ナカシマならでは」を世界中に届けていたいですね。それはもしかしたら、いまと同じ姿のプロペラではないかもしれない。でも間違いなく、未来の海に君臨する存在であると信じています。■

## ナカシマプロペラの金言

売り手よし、買い手よし、世界よし

古くから商業で栄えた近江地方(現・滋賀県)の商人たちが伝える心得で、本来の三句目は「世間よし」。自分たちだけでなく、お客様、さらには社会の利益にもなる商売をせよと教える。故・中島保氏(二代目社長)が社史で「『世界よし』の新たな大きな夢をかなえてほしい」と述べ、ナカシマの心得が生まれた。





# シリーズ寄稿:日本ならではのイノベーション 小さな建築

生き残りをかけて、多くの企業が「モノ」の提供から「ソリューション」の提供へのシフトを迫られている。ものづくり大国の日本にとって、これは一見、望ましくない状況のようにも思われる。

だが、日本のものづくりには、精巧な細部から、柔らかでしたたかな全体を生み出すことに秀でているという一面もあるのだ。それは例えば、隈研吾氏の提唱する「小さな建築」に観てとることができる。

「小さな建築」とは、規模の小さい建築のことではない。扱いやすい「小さな単位」から成り、それを釘や接着剤などで固定せずに、積んだり、織り合わせたりして連ねる、「取り返しがつく」構造体、つまり、人が気楽に作っては壊せる建築のことだ。それは、生物の細胞のようなシステムによる自由さ、しなやかさを持ち、自然がもたらす循環の中に身を寄せる、自然と共にある「生きている」建築でもある。環境に対して不変・不動で支配的であろうとする、従来の建築の概念を根底から覆すものといえよう。

貯水や照明装置、ネットワーク配線などマルチな機能を果たすブロック (写真) を積み上げてできる構造体、「Water Branch House」 (ニューヨーク) のほか、「カサ・アンブレラ」 (ミラノ)、「竹屋 Great (Bamboo) Wall」 (北京) など、小さく柔らかい建築を具現化するプロジェクトを、隈氏は世界各地で展開している。

こうした「小さな建築」の叡智は、氏によれば、日本の伝統建築に詰まっているという。襖などの可動式の間仕切りはもちろん、例 えば、細い柱の群が建築をささえているため、柱の位置でさえ自由に変更することができる。

近代文明が追求してきたのは、これとは対照的な「大きな建築」だった。それらは、「単位」からして重く大きく、「取り返しがつかない」硬い構造システムを持つ。結果的に人間を世界から切り離し、幸せから遠ざけてきたところがある「大きな建築」に対して、「小さな建築」は反対に人と世界をしなやかにつなぐ道具のようなものだ、と隈氏はいう。

日本人が古くから育んできた、自らを自然の一部とする人と自然の関係、そこに根ざす独自の世界観・美意識を背景に持つ、隈氏だからこそ持ち得た建築の発想なのではないだろうか。

個々の「モノ」や部分に、全体を見通すソリューションが、はじめから内包されている……日本のものづくりが本来持っている「ならでは」のイノベーション力は、建築にとどまらずさまざまな構造体を創り出す全てのものづくりの現場で発揮されうるはずだ。

こうしてみると、「ソリューション」の時代とは、日本のものづくりの危機どころか、それが秘めた可能性を、色とりどりに花開かせるまたとない機会を意味している。その先には、いまの延長線上にはない情緒あふれる未来の文明の姿が見えてくるにちがいない。■

参考文献: 隈研吾『小さな建築』(岩波新書) 写真提供: 隈研吾建築都市設計事務所 文: 八百万ING

# **NAKASHIMA PROPELLER**

#### 売り手よし、買い手よし、世界よし

日本の造船業の一大中心地・瀬戸内地方に本社を構える ナカシマプロペラは、船舶用プロペラでトップレベルのシェアを 誇る船舶推進機器メーカーです。

漁船用プロペラを造る鋳物工場に始まり、つねに安心・安全・ 快適をお届けするために、「プロペラにできること」を追求し 続けてきたその歴史は、2026年に創業100周年を迎えます。

推進機能の中心を担うプロペラから船全体を見通すと、その 最適な姿が見えてくる——そんな新しい視点で、ナカシマは船の ライフサイクルに寄り添うトータルなサービスを提供し、環境 負荷の低減にもつながる低燃費化の実現など、

業界を越えて世界に貢献していきます。

# ■ ナカシマブランドとは?

船の一生に寄り添い、"推進性能"を最適化 するスペシャリスト

#### 日本品質を生む設計力・製造力

高性能コンピューター(3000コア大規模プロセッサ)が、100万基にのぼる世界屈指の生産実績の中で蓄積された膨大なデータをもとにはじきだす、設計図。最先端のテクノロジーと熟練した職人技を併せ持つナカシマ独自の製造力が、その設計形状を忠実に再現、高効率・低振動・低騒音の日本品質を提供しています。

# 一品受注生産 "100の船があれば100通りの プロペラがある"

プロペラは、推進性能の最適化の要。メーカー本位の効率化を排して、一品受注生産にこだわり、 一貫生産体制のもと、あらゆる船に対して「その 一隻」に最適なプロペラを設計・製造しています。

#### 最新鋭機器の利用を高度化

N C 加工では独自のスマートテクノロジーにより、高効率プロペラの 複雑な三次元曲面の形状定義も可能に。前・後縁部のエッジ加工など、 加工機による翼面加工領域を広げて、特殊な職人技が必要なプロセス を簡素化し、迅速かつバラつきのない製造を実現しています。

#### 究極の滑らかさ

人間の手は、物体表面のなめらかさを判定する理想の検査装置です。 最高の訓練を受けたナカシマの職人は、翼表面をゆっくりと撫でる だけで、1/100mmの乱れを感知する「匠の技」を身に付けています。 最新のCFD計算でも正確な予測がむずかしい微妙なキャビテーション や鳴音の発生につながる不具合も決して見逃しません。

# どんな時も、どんな場所でも

プロペラ損傷時には、世界的ネットワークを活かして、修理エンジニアの派遣など迅速に対応。燃費状態や航路、経年劣化など諸条件を考慮し、エッジカットや省エネ研磨、レトロフィットの提案なども行い、船の「一生」を通じてきめ細かくサポートします。

#### サービスについて

船舶用プロペラ分野・推進システム分野におけるFPP、CPP、スラスタ、船尾まわり省エネ付加物、新素材(CFRP)プロペラのデザインと製造

損傷プロペラの補修、エッジカット(エッジ修正含む)、省エネ 研磨、実運航・就航後の推進機器のサポート、低燃費船を実現する 推進性能の最適化など

対応船種:メガコンテナ船、VLCC、VLOC、VLGC、LNG/LPG船、PCC、

客船、作業船、内航船、調査船、パトロール船 対応船級:全主要船級(アイスクラス対応可)



#### ■ 展示会情報

ASIA PACIFIC MARITIME [シンガポール] … 2016年3月16日~18日 SEA JAPAN [東京] … 2016年4月13日~15日

OFFSHORE TECHNOLOGY CONFERENCE [アメリカ] … 2016年5月2日~5日

SMM HAMBURG [ドイツ] ··· 2016年9月6日~9日

# ナカシマプロペラ株式会社

〒 709-0625 岡山県岡山市東区上道北方 688-1

086-279-5111

npcwebmaster@nakashima.co.jp http://www.nakashima.co.jp

Japan · Singapore · Vietnam · Philippines

 $\mathsf{Korea} \cdot \mathsf{Taiwan} \cdot \mathsf{China} \cdot \mathsf{U.S.A.} \cdot \mathsf{Brazil} \cdot \mathsf{Turkey} \cdot \mathsf{U.K.} \cdot \mathsf{Namibia} \cdot \mathsf{UAE}$ 

Propelling 第2号 2015年11月20日

企画・制作 株式会社八百万INGカンパニー, FARVE

写真 太田拓実[P1,4],中川正子[P2]

Copyright 2015 NAKASHIMA PROPELLER Co.Ltd. All Rights Reserved.